

【関東大震災 直後】

芥川（龍之介氏）は 焼け野原と化した東京を歩いて回り
その様子を手記に残している
変わり果てた東京を嘆きながらも
芥川は 人々のある行動に心動かされた

親しさうに話し合ったり
煙草や梨をすすめ合ったり 互に子供の守りをしたりする景色は
殆ど至る処に見受けられたものである
大勢の人人の中にいつにない親しさの湧いてゐるのは 兎に角美しい景色だった

僕は永久にあの記憶だけは大事にして置きたいと思つてゐる
東京のあちこちで復興に向けて人々が立ち上がっていた

